

職業選択の自由とコーナー保育

人生の折り返しを過ぎ、最近つくづく思うことがあります。人生の大部分は仕事と家庭からできていると。一日の大半は仕事。残りは家事をこなしつつ家族と過ごします。そうなると仕事選びとパートナー選びは重要意思決定事項です。その割になりゆきや勢いで決めちゃうこともまた人生なのですが、どうにか自分で決めて前に進む(時に進まないことを決める)ことが大切です。憲法にも職業選択の自由、婚姻の自由が認められているところです。

これ以外にも様々な選択によって人生は形作られています。今日のランチだって、ネットでポチる服だって、メールの言葉選びだって選択です。意識的にしる無意識的にしる毎日毎日膨大な選択をしながら過ごしています。その積み重ねが人生という訳です。もっと言えば、人生の質は選択の質です。上手く選べたり、ミスチョイスしたり、たまに選択から逃げたり、ケースバイケースですが自分で選択する力は必須能力です。

さくらしんまち保育園では子ども達が自ら選択することを大事にしています。選べば選ぶだけ主体的になるからです。逆に指図すれば指図するだけ従属的になるでしょう。選択も一つのスキルですから、繰り返すことで選択の質も向上します。その一方で自分で選ぶことは大変なことでもあります。選んだ責任まで引き受けなくてはなりません。いっそ誰かに指示された方が楽ですしその人のせいにすることもできます。

さくらしんまち保育園の子ども達は時に楽しく、時に真剣に自ら進んで選択してくれています。それはその子の発達や個性に見合った選択肢が用意されているからです。私たち職員は選択肢の中に保育的意図を込めています。どう選んでもちゃんと教育的なねらいが達成できる選択にしたいと考えています。次号ではその具体例もお示しできたらと思います。

私たち大人も楽しく丁寧に選択しながら生きていきたいものですね。

さくらしんまち保育園 園長 小嶋泰輔



園内研修 発表ポスター
2021年7月 籠山人志

普段は慎重派の創介くん。七夕をモチーフにしたマラカス製作では、面白みとして割り箸やストローを切ったものを穴落としができるように設定した。中でも創介くんは製作を始めてから20分近く、黙々と入れ続け、最後はペットボトルの半分まで溜まる程だった。保育園では自分の好きなことを追求してやることができる。乳児は集中力がないのではなく、乳児だって好きなことや楽しいことには夢中になっていつまでもやり込む、集中して遊ぶことができるということが伝わる場面だった。子どもたち一人ひとりに性格や個性があり、全員運動が好きな訳ではないし、ブロックやままごとが好きな訳ではない、それぞれの子が好きな環境でじっくりと取り組むことができるような保育をしていきたいと改めて感じた。(籠山人志)